

各高齢者福祉施設の代表者 様

鳥取県危機管理局危機管理政策課長
(公 印 省 略)

「鳥取県避難スイッチモデル事業」ワークショップ実施後の取組について（依頼）

本県の防災・危機管理行政の推進については、日ごろ格別の御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。また、4月26日に開催した本モデル事業のワークショップに参加いただき、ありがとうございました。

鳥取市会場で参加いただいた大路川流域の参加施設の皆様、及びリモートで視聴していただいた参加施設の皆様から回答いただいた、アンケート結果について別添1のとおり取りまとめましたので情報共有します。

また、本アンケート結果から想定される課題を踏まえ、参考事項を下記のとおり取りまとめましたので、各施設の避難判断のタイミング（避難スイッチ）について必要な見直しを行っていただくとともに、避難や避難支援の実行性の確保に努めてください。

(問合せ先：企画担当（原、小谷）、電話 0857-26-7584、電子メール kikikanri-seisaku@pref.tottori.lg.jp)

記

1 「避難スイッチ（避難を判断する目安）」の候補となる情報

市町村が発出する避難情報だけでなく、「目で見える身近な異変」を参考とすることも有効です。河川ライブカメラ等で確認できる「川の水位情報」については、普段から見る習慣をつけておくこと、そして豪雨時の水位変化に気づくことが、実際の避難判断につながりますので、こちらも参考としてください。画面操作で不明の点などは、当事業の担当までお尋ねください。

※確認はこちらから <http://tottori.bosai.info/>

(「鳥取県の防災情報」⇒「鳥取県河川情報」で、河川の水位情報のほか、雨量の情報も確認できます)

2 高齢者福祉施設の避難については、「避難スイッチ」だけでなく、避難や避難支援にどれだけ時間がかかるか、見積もっておくことが重要になります。その上で、人手が足りない、時間がかかり過ぎるといった場合には、施設間で人員の応援体制をつくっておくことや、地域の自主防災組織への協力をお願いしておく等、必要な事前の準備をお願いします。

特に、水平避難が必要な高齢者福祉施設については、想定している避難先までの避難ルートが安全かどうか、避難訓練で実際に行ってみるなど、事前に確認してください。

※各施設周辺の想定浸水深の確認（国土交通省「浸水ナビ」）

別添2のチラシのとおり、web上で任意の地点の浸水深が確認できます。施設周辺の想定浸水深や水平避難が必要かどうか等の確認にご活用ください。

3 ベストの避難先が被災することを想定して、次善の避難先（セカンドベスト）を想定しておくことが有効です。避難先の選定に当たっての相談は、市町村担当課までお尋ねください。

4 1～3を参考に、水防法等に基づく避難確保計画の作成を義務付けられている施設については、当該計画がより実行的なものとなるよう、必要に応じて見直しを行ってください。

5 本事業を踏まえ、避難訓練の実施などさらなる取組を実施する施設がありましたら、可能な限り協力をしたいと思いますので、担当までご案内ください。